

講義名	生活金融論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	小笠原 宏		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	23113

主題と概要

より多い経済生活のためにも個人（家計）の資産運用の必要性は高まっている。合理的な「投資行動」のためには金融証券市場を念頭において、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を養うことが重要である。しかし各種金融商品は複雑かつ多様化しており、その中での「最適」選択は難しい。それ故に、効率的な資金運用（投資）を行うために基本的な理論及び手法を学ぶ。高度化し、複雑化した金融商品及び、金融市場に関する解説と動向を、タイムリーな事件、ニュースとからめて解説していく。多様な視点も考慮に入れて資産投資運用法を自ら構築できるようにするについても解説していく。多様なリスクの現実的な把握と対処法について議論、解説する。

到達目標

合理的な「投資行動」を自ら考えて実行するために役立つ金融証券市場の知識、リスク概念など学び習得したうえで、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を醸成する。リスクをどうマネージするかも考える。具体的にリスクの把握と設定、そしてそれに対する意識を高める。

提出課題

授業理解度、進捗に応じて課す場合がある。簡単な演習のようなものを授業内で行うこともある。その場合はその結果や分析を課題にして提出を求める。（1～2回程度）

評価の基準

基本的に課題(合計20%) + 最終試験(50%) + 授業参加度(30%)。課題が無い場合は、期末試験(60%) + 授業参加度(40%)とする。授業参加度とは、講義の途中で実施予定の、実験、演習への参加を意味する。なお、基本的に全授業回数の80%以上の出席が最終試験受験資格。

履修にあたっての注意・助言他

金融、株式市場並びに投資に興味を持つようにして下さい。『金儲け』につながるような情報や機会に常にアンテナを張っていて欲しい。定番定説的なことを説明するような講義でなく、ここでしか聞けない中身の講義をしてきました。新しい視点、アプローチを啓蒙するような講義を目指しています。

教科書

・特に定めない。

プリント資料及び参考文献

証券市場、金融市場、その仕組みなどについて解説してある一般の入門書の類を積極的に読んで見てほしい。投資指南の類の本や資料などは殆ど役立たないので進めない。日経ヴェリタスなどの金融専門新聞などをざっと見る方が参考になる。その他適宜必要に応じて授業中に参照及び提示する。適宜役立ちそうなものは、印刷して配布あるいは、ファイルで配布。A Vコンテンツなどは、実際に見たり聞いたりしてもらおう。（事後配布や事前配布は無理）。ブログを活用した、授業ログ（板書撮影ファイル(ppt)、音声ファイル(mp3)を復習用にアップして参照可にしてあるので、特に復習及び試験対策の際には活用して欲しい。（授業内で詳しく案内する）

授業計画

- 1-2 投資と投機の違い・消費行動と投資行動の違い。投資の奥義伝授
- 3-4 リスクの概念。リスクプロファイルの考察。
- 5-6 金融市場の基本的理解。
- 7-8 証券市場の基本的役割。
- 9-10 保険の仕組みと市場
- 11-12 ポートフォリオ理論の基本（分散投資）
- 13-14 不動産投資や無形資産投資
- 15 高度な金融派生市場の役割（デリバティブ、F X、C D Sなど）さらにフィンテックについても触れる。

予習・復習

ブログを開設しており、そこから授業ログ（板書及び音声）がダウンロードできるようにしているので、それらを基に、自分用の講義ノート（試験対策用で持ち込み可）を作成すること。疑問や不明点は、出欠票（毎回配布）の裏面に記入したり、ブログに書き込みをしたりすること。（授業内で必要に応じて解説するつもり。） ブログのurlは授業開始時に教える。受け身の姿勢だけの受講態度では得るものはそれなりであることを自覚して欲しい。

備考